

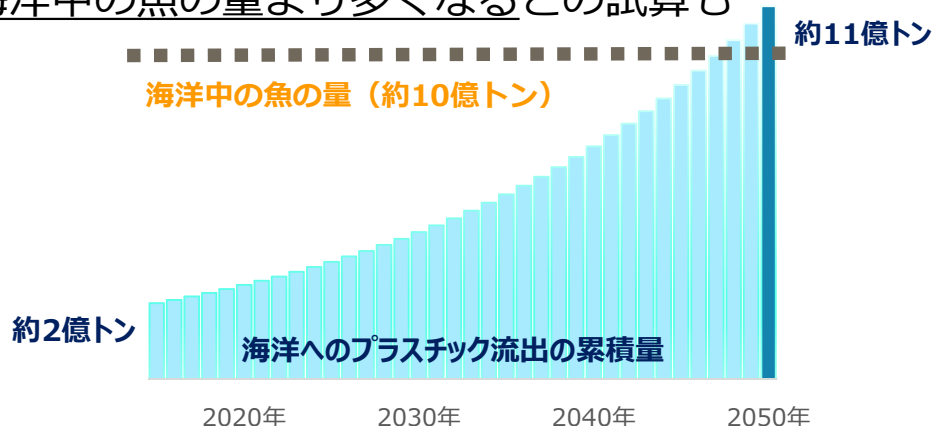
海洋プラスチックごみ モニタリングデータ共有プロジェクトについて

Global Marine plastic litter Monitoring Network Project

環境省
海洋プラスチック汚染対策室

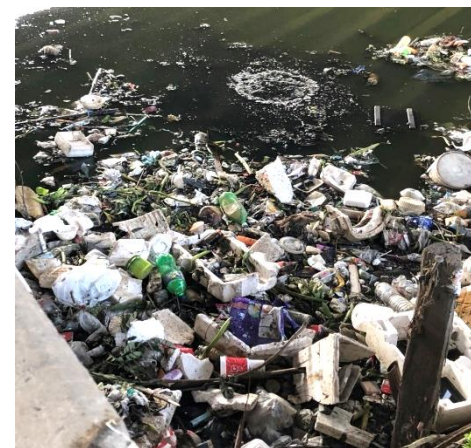
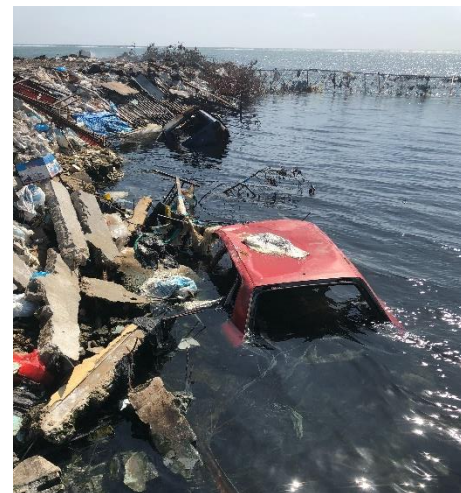
増え続ける海洋へのプラスチック流出

このまま海洋へのプラスチックの流出が続くと、2050年には、海洋へのプラスチックの流出の累積量が海洋中の魚の量より多くなるとの試算も



【Jambeck論文等での推計に用いられた仮定】
●プラスチックの生産量が、毎年5%増加すると仮定
●生産量（2015年は3.22億トン）の約3%が海に流出と仮定

世界全体で対策が急務



海プラ汚染による被害・影響

- ・生態系を含めた海洋環境への影響
- ・船舶航行への障害
- ・観光・漁業への影響
- ・沿岸域居住環境への影響



© NOAA

・海洋中のマイクロプラスチック（5 mm以下の微細なプラスチック）が生態系に及ぼす影響も懸念されている



九州大学
磯辺研究室提供

※中国や東南アジアからの流出が多いと推計されているが、国際合意のある統計は、現状存在せず、科学的知見の収集が急務。

流出の多くが新興国・途上国とも言われていることから、これらの国々を含む世界全体で取り組むことが重要。
→G20での「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」、
「G20海洋プラスチックごみ対策実施枠組」の共有



大阪ブルー・オーシャン・ビジョン

- ・ G20首脳が、**共通のグローバルなビジョンとして共有**
- ・ 他国や国際機関等にもビジョンの共有を呼びかけ（2020年9月現在、**86の国と地域**が共有）

「社会にとってのプラスチックの重要な役割を認識しつつ、改善された廃棄物管理及び革新的な解決策によって、管理を誤ったプラスチックごみの流出を減らすことを含む、包括的なライフサイクルアプローチを通じて、**2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す。**」

G20海洋プラスチックごみ対策実施枠組

- ・ G20持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合で採択

(1)G20各国は、以下の**自主的取組を実施**し、**効果的な対策と成果を共有・更新**することを通じた**相互学習を行う**

①適正な廃棄物管理、②海洋プラスチックごみ回収、

③革新的な解決策（イノベーション）の展開、④各国の能力強化のための国際協力など

(2)G20各国は、協調して、①国際協力の推進、②イノベーションの推進、③科学的知見の共有、④多様な関係者の関与と意識向上等を実施するとともに、G20以外にも展開

- ・ 上記を、G20首脳が承認 「我々はまた、「G20海洋プラスチックごみ対策実施枠組」を支持する。」

■ 科学的知見と革新的解決策に関するG20ワークショップ

- 日本国環境省・EU環境局・米国環境保護庁との共同イニシアチブによる重要課題に対する主導的役割

日本国環境省

- モニタリング手法とデータ整備

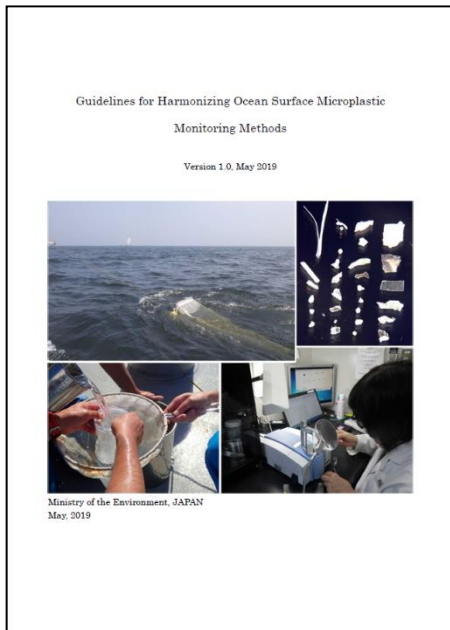
EU環境局

- 海洋プラスチックごみの発生源、経路、影響の特定と対策

米国環境保護庁

- 海洋プラスチックごみ削減に向けたイノベーション

- 
- ワークショップの開催やG20国への成果報告を行うことで科学的知見の強化と革新的解決策の進展を牽引



ガイドラインの表紙
(2019年5月7日に公開)

○12か国22人の研究者により執筆

○マイクロプラスチックの調査を行う者や調査結果を利用する者を
読者として想定

内容の例

- ・サンプリングは穏やかな海で実施すべき
- ・流量計を使用すべき
(航行距離から推計すると誤差が大きい)
- ・1~5mmの粒子と1mm未満の粒子を分けて報告すべき
(1mm以上の粒子は網目の大きさによる影響をあまり受けない)
- ・有機物を除去する前処理を実施すべき

現在の取組

○小型の調査船や漁船でも利用できるガイドラインとするため、改訂に向けた追加調査を実施。

➡海洋ごみの流出量が多いと言われている**東南アジアでも広く調査が可能**に。

インドネシア・ベトナムをはじめとする国々でのモニタリングに関する能力構築支援にも活用。

○合わせて調和に必要なガイドラインでの推奨事項を報告するためのデータ入力フォームを作成し、関係者に入力の依頼を行う予定。

➡調和されたデータに基づくマイクロプラスチックの**二次元分布マップを作成**し、ガイドラインの有用性を示すとともに更なる普及を目指す。

◆海洋プラスチックごみのモニタリング手法調和とデータ整備に関するG20WS

概要

令和2年9月7日（月）に海洋プラスチックごみに関するモニタリング調和とデータ収集に関するG20ワークショップを、ウェブを通じて開催し、31か国から約160名の政府関係者や研究者が参加。ワークショップでは、海洋プラスチックごみに関するモニタリング手法の調和（比較可能にすること）とデータの世界的な共有の重要性と推進方法について議論。日本からは新たな世界的モニタリングデータ共有システムを提案し歓迎された。

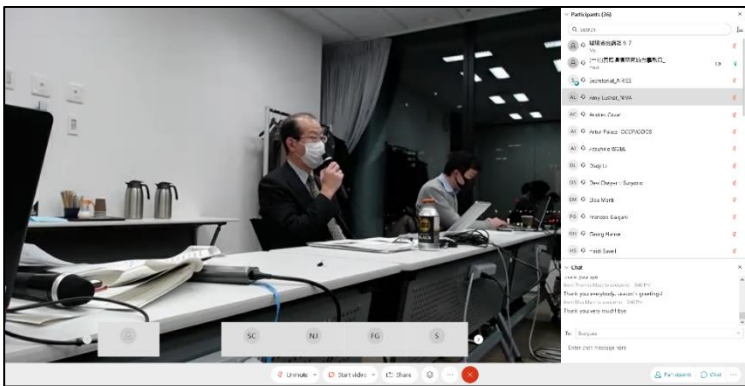
本ワークショップ特設ページ <https://g20mpl.org/archives/893>



◆海洋プラスチックごみモニタリングデータ共有プロジェクトに関する専門家会合

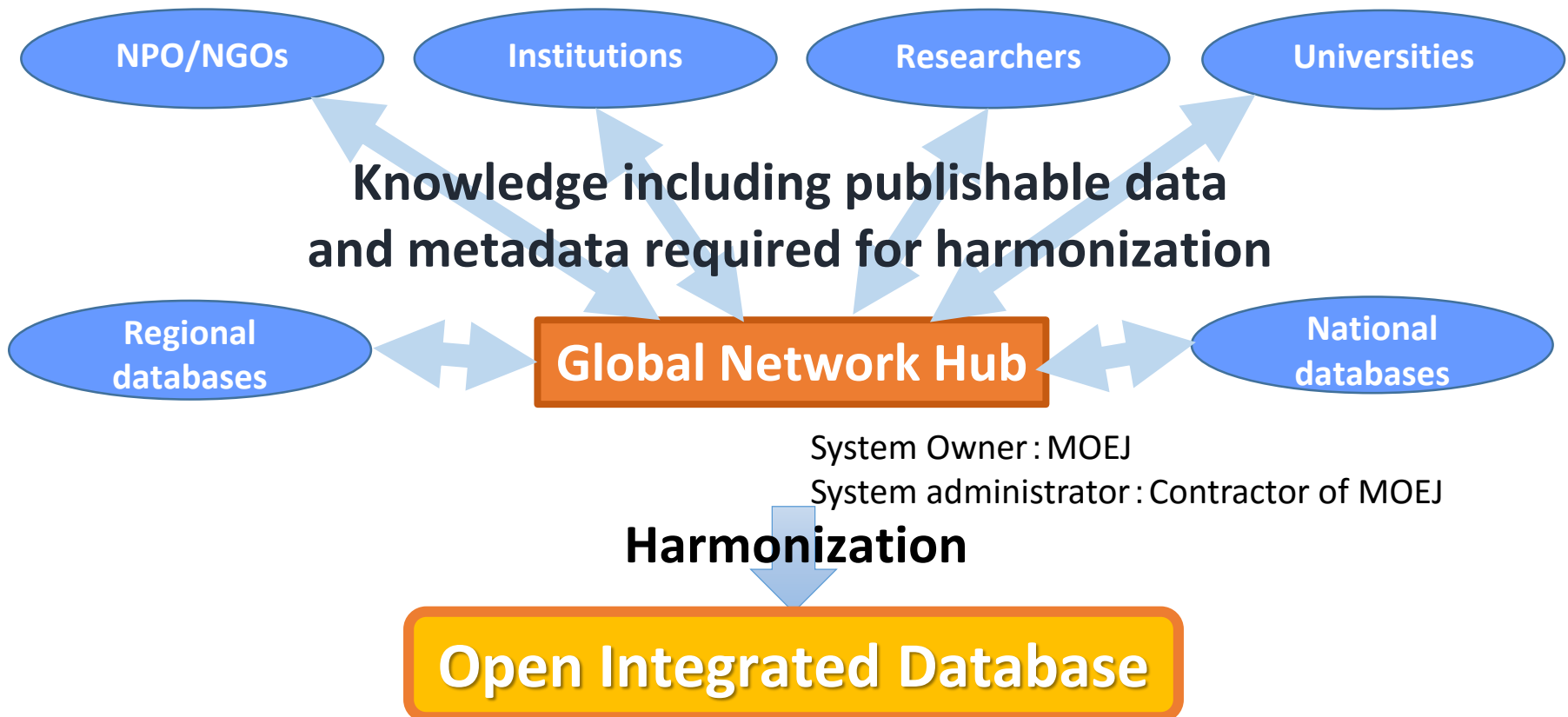
概要

令和2年12月18日（金）に、G20ワークショップで日本が提案した海洋プラスチックごみに関するデータ共有プロジェクトに関する第1回国際専門家会合を、令和3年1月18日（月）に国内専門家会合をウェブを通じて開催した。上記会合では、最新の研究成果の紹介、データベースの設計方針、クオリティコントロール、データポリシー、国際的なネットワーキング構築等について議論を行った。



本プロジェクトでは

- ◆既存の他のイニシアチブと協力して、モニタリング活動を収集・共有するためのグローバルネットワークハブを形成する
- ◆データの調和とビジュアル化によって付加価値を生み出す



海洋プラスチックごみモニタリングデータ共有システムのイメージ

